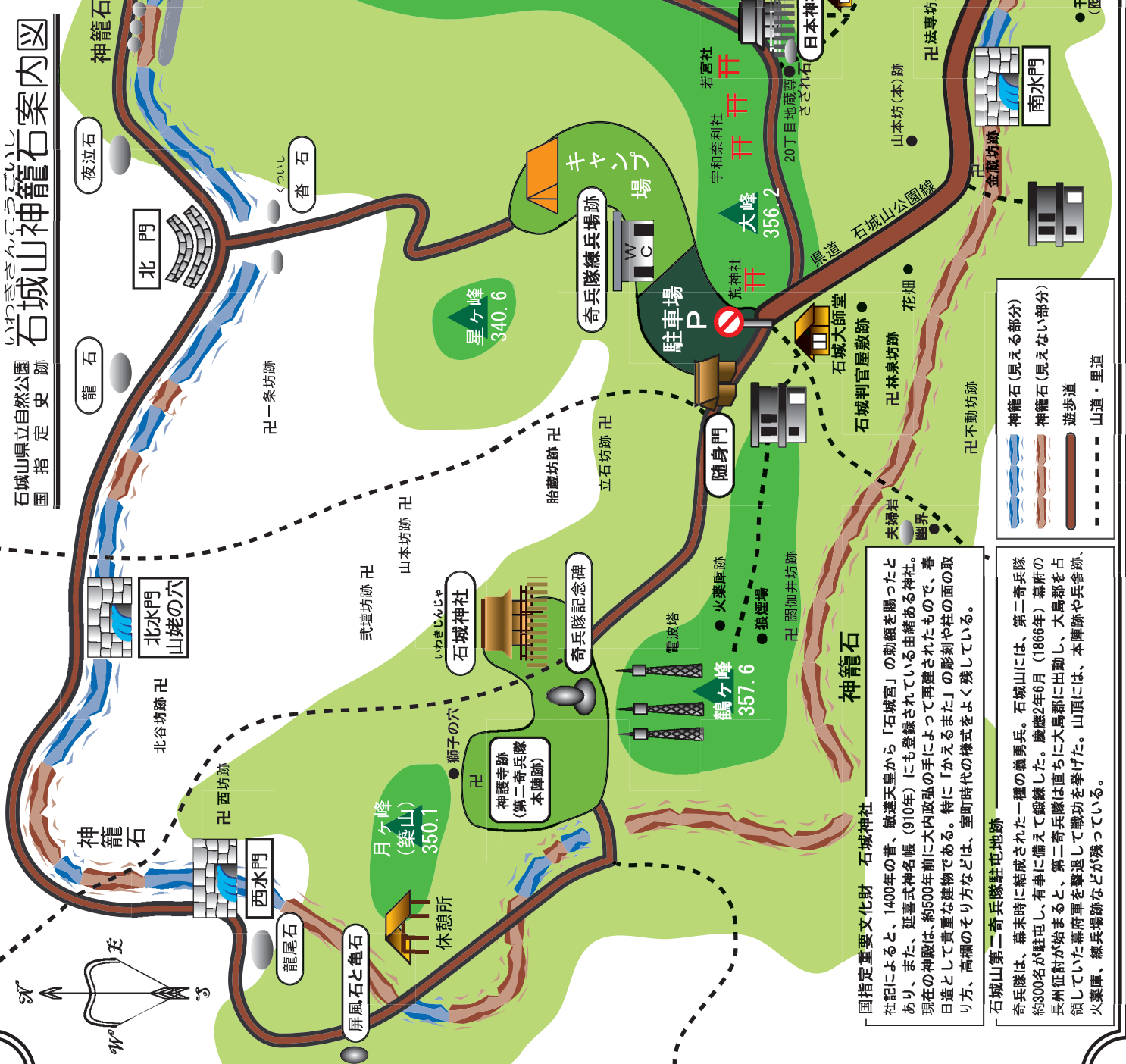


石城山神籠石案内図

石城山県立自然公園 国指定史跡

石城山 標高362.0m。それほど高い山ではないが、頂上からの眺めはすばらしく、瀬戸内海の島々はもろろん、快晴の日には四国や九州の国東半島までも見渡すことができる。山頂付近にはキャンプ場やハイキングコースがあり、気軽に自然と触れ合える山として親しまれている。

国指定史跡 神籠石
 石城山の8合目あたりを約2600mに渡り取り巻いている巨石の列。4つの谷間に高い石の壁を築き、中央下部には水門を設けている。神籠石は、明治末期から「神塚説」と「山城説」で論議されているが、形状などが朝鮮式山城に類似していることから、現在では、山城説が有力になっている。



国指定重要文化財 石城神社
 社記によると、1400年の昔、敏達天皇から「石城宮」の勅額を賜ったとあり、また、延喜式神名帳(910年)にも登録されている由緒ある神社。現在の神殿は、約500年前に大内政弘の手によって再建されたもので、春日造として貴重な建物である。特に「かえるまた」の彫刻や柱の面の取り方、高欄のそり方などは、室町時代の様式をよく残している。

石城山第二奇兵隊駐屯地跡
 奇兵隊は、幕末時に結成された一種の義勇兵。石城山には、第二奇兵隊約300名が駐屯し、有事に備えて鍛錬した。慶應2年6月(1866年)幕府の長州征討が始まると、第二奇兵隊は直ちに大高郡に出動し、大高郡を占領していた幕府軍を撃退して戦功を挙げた。山頂には、本陣跡や兵舎跡、火薬庫、練兵場跡などが残っている。

- 千屋敷 (岡屋敷)
- 神籠石(見える部分)
- 神籠石(見えない部分)
- 遊歩道
- 山道・里道